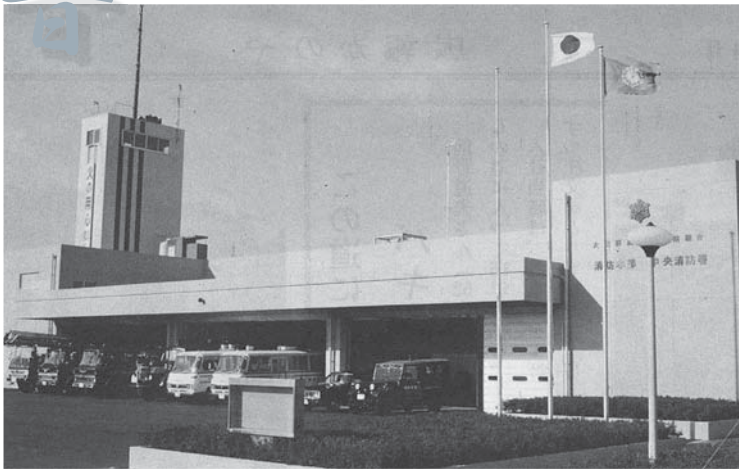




広域消防の発足（大隅肝属地区消防組合消防本部、中央消防署）

昔

昭和53年



今



大隅広域市町村圏事業の一環として消防に関する事務を共同処理し、業務を広域的かつ合理的に運営するため、鹿屋市及び肝属郡の9町（串良町、吾平町など）で、昭和52年に大隅肝属地区消防組合を設立。その翌年には消防本部と中央消防署の庁舎を新川町に構え、火災や災害、救急搬送など最前線で活動しています。



組合設立前の鹿屋市消防署



輝北町上百引を走る定期化された空港特急バス

このルートは移動時間がかかることから、多くの人は空港への移動に自家用車かタクシーを利用していました。タクシーでの移動には2万円以上の料金がかかることや、自家用車の駐車料金が非常に高い

大隅地域は地理的条件から、鹿児島空港への交通が不便で、特に公共交通機関を利用して空港へ行く場合、垂水港まで移動しフェリーで鹿児島市へ渡り、リムジンバスで空港へ向かうというルートしかありませんでした。

空港特急バスの定期化

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！

という不満がありました。

そこで、大隅半島のバス路線を運行している鹿児島交通が、昭和57年に鹿屋バスセンターから鹿児島空港間を直行で結ぶ臨時バスを正月とお盆の前後を中心に予約制で運行を開始しました。

その後、利用客の増加や定期化を望む住民と近隣市町の強い要望により、昭和62年2月に直行バスから「空港特急バス」と名称を変え本格的に運行を開始。バスは鹿屋バスセンターから高隈、百引、市成などを経由して鹿児島空港を結び、片道約1時間40分で毎日8往復運行されるようになります。運賃も安く、予約なしで乗車可能と便利になりました。

平成27年10月には既定路線に加え、大隅縦貫道から、東九州・九州自動車道を経由した路線が追加され、大隅地域と空港を結ぶ空港特急バスの利便性はさらに高くなりました。